

通所型サービス A 内容一覧

項目		内容
基準		通所型サービス A
サービス種別		基準緩和サービス
サービス内容		積極的な生活機能向上のための機能訓練、運動、レクリエーション 一定以上の見守りが必要な利用者に対する交流、外出機会の提供
サービス提供 の考え方		心身の状態が安定しているもの 運動や外出・交流などを主な目的としているケース 入浴、送迎、活動時に見守り程度の援助しか必要としないケース
実施方法		市が事業所を指定
サービス提供者		通所介護事業所 N P O 等
基準		人員等を緩和した基準
管理者		1 人(非常勤も可)兼務可
生活相談員		1 人以上(兼務可)
(准) 看護師		原則不要(但し、体調急変時に、(准) 看護師と連携が図れる体制であること)
従事者	15 人未満	専従 1 人以上(時間換算)
	15 人以上	追加 1 人以上の必要数追加(同一敷地内の事業所の職務と兼務可)
機能訓練士		1 名以上(兼務可)
設備		・サービス提供に必要な場所(3 m ² × 利用定員以上) 室構成、室数は問わない ・消火設備その他の非常災害に必要な設備 ・必要な設備・備品
運営基準		・必要に応じ、個別サービス計画の作成 ・従事者の清潔保持・健康状態の管理、 ・従事者又は従事者であった者の秘密保持 ・事故発生時の対応 ・廃止・休止の届出と便宜の提供
利用者の安全配慮		保険加入の義務
心身の状況等の把握		必要
利用者に関する 市への通知		要支援状態の程度を増進または要介護状態になったとき 不正な行為により保険給付を受けようとするとき

項目	内容
利用者のモニタリング	1回 / 3ヶ月
利用回数	事業対象者・要支援1：週1回まで 要支援2：週2回まで 総合事業対象者は原則要支援1相当とし、アセスメント等により要支援2相当のサービス量が妥当と考えられる場合は要支援2の利用回数を適用します
単価	送迎及び入浴無 270 単位 / 1 回 送迎又は入浴無 290 単位 / 1 回 送迎及び入浴有 310 単位 / 1 回
算定の考え方	現行相当単価案(事業対象者・要支援1の1回当たり単価)の80% + 生活相談員設置人件費上昇額 ÷ 市内事業者の定員の平均 - 各種加算単位 加算は菜の花館の単価を基準
利用者負担	1 割相当 + 実費 一定以上の所得者は 2 割相当

介護予防通所介護（現行）との比較

項目	内容
基準・サービス内容	<p>人員基準 （准）看護師：専従1人以上（時間換算）（定員10名以下の事業所においては看護職員または介護職員） 原則不要（但し、体調急変時に、（准）看護師と連携が図れる体制であること） 従事者：15名以上1人につき専従0.2人以上 必要人数</p> <p>設備基準 食堂・機能訓練室（3㎡×利用定員以上）静養室・相談室・事務室 サービス提供に必要な場所（3㎡×利用定員以上） 室構成、室数は問わない</p> <p>運営基準 個別サービス計画の作成 基準緩和では特に規定なし</p> <p>サービス 送迎・入浴は選択式（単価に違いあり）</p>
単価	<p>包括単価 1 回当たり単価</p> <p>送迎及び入浴無 270 単位 / 1 回 送迎又は入浴無 290 単位 / 1 回 送迎及び入浴有 310 単位 / 1 回</p>
サービス提供者	<u>市指定の事業所</u>
利用者	<u>要支援1、要支援2、総合事業対象者のうち別に定めたサービス提供の考え方に基づき、アセスメント等の結果を受け、地域包括支援センターで判断します。</u>
利用回数	<p>要支援1：週1回程度、要支援2：週2回程度</p> <p>事業対象者・要支援1：週1回まで 要支援2：週2回まで 総合事業対象者は原則要支援1相当とし、アセスメント等により要支援2相当のサービス量が妥当と考えられる場合は要支援2の利用回数を適用します</p>